



品質工学予測技術を活用

品質工学の予測技術であるMTシステムで、健康診断や街づくりを評価する試みが進んでいる。東京慈恵会医科大学の中島尚登准教授らは健康者の臨床データから作成した尺度で、診断対象者が正常か異常かを予測。また、吉野不動産鑑定事務所(東京都新宿区)の吉野莊平鑑定士らは市町村の出生率データなどから「良い街」「悪い街」のランキングを作成した。

MTシステムは正常データから作成した多変量データの特性を単一の尺度に縮約し、この尺度をもとに対象物の距離の大きさを正常か異常かを判別する。中島氏らは健康者30人の3年程度の肝機能データなどから作成した尺度で、診断対象者の疾患を予測。対象者のデータが正常

健康診断・街づくり 評価

な距離内ならば確率80%で翌年も良好と予測できるという。これにより診断項目を適切に減らせば医療費を削減できる。ただ、統計学をデータ解析の基本とし診断も重視する医学でMTシステムの理解を得るのは困難も伴うという。

一方、吉野氏は出生率や死亡数などで「正」と「負」のイメージに分かれるデータ87項目から尺度を定め、「良い街」「悪い街」の順位を算出した。この結果、負の影響が相対的に小さい香川県直島町が「良い街」1位だった。

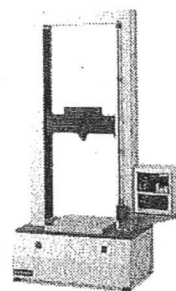
品質工学会は「モノづくりの改善に多用される品質工学の有用性が社会的に関心が高い分野にも生かされれば、すそ野が広がる」と期待する。

液晶表示パネル採用

引っ張り今田製作所が7種

【名古屋】今田製作所(愛知県豊橋市、今田学

社長、0532・45・8851)は、2013年末をめどに引っ張り圧縮試験機(写真)の最廉価機種を除く全7機種に液晶表示パネルを採用する。従来のデジタル表示



液晶パネルは計測の時間や回数なども表示する。従来パネルは荷重と変位のみの表示だった。新機能として試験条件の保存機能や設定した荷重や変位の

繰返し試験機能、試験の開始・終了時の荷重調節機能などを追加した。従来分かれていたパネルと操作部を一体化したため、試験条件の設定などがしやすい。ソフトウェアの改良でパソコンによる試験条件設定も可能にした。

液晶パネルへの変更は12年4月から順次行っており、13年末までに終える計画。価格28万円の最廉価機種「SV-55C」は機能を絞り込んでおり、従来パネルの採用を継続する。

小型電動リフター

モーリス



モーリスコーポレーション(東京都中央区、吉野昭社長、03・3663・5455)は、オランダのマタダ(ヘルフォート市)製の「小型電動リフター」の取り扱いを始めた。75kgまでの荷物を運搬し、1.1mの高さまで持ち上げることができる。価格は国内運賃別で78万7500円。モーリスが日本総輸入元となり、地域ごとに販売店を募集。日本では年間100台の販売を目指す。

マレーシア工場増強

エンジェン

量産型 熱処理設備を新設

オリエンタルエンヂニアリング(東京都荒川区、河田一喜社長、03・3802・4311)は、マレーシア工場の熱処理加工設備を増強する。現地で旺盛な熱処理加工の受注に対応するの

場には、すでにバッチ型のガス浸炭炉が7基ある。同国では日系の自動車メーカーが多く進出して熱処理加工の需要が増大しており、工場はフル稼働が続いているという。同現法は96年の設立。オリエンタルエンヂニアリングが40%、現地の熱処理会社60%を出資している。

物流業界のほか、大型家電製品や事務機器、建物の運搬用を想定する。通常一人で持ち上げる重さの荷物に適した小型は珍しい。2011年春にマタダが欧州で発売し、約200台を販売。板ガラス運搬用のオプションもある。モーリスはコールセンター事業や駐車場機器販売などを手がける。

機械・ロボット・航空機

式空間電磁誘起変換シフトした手振を振作して測定

ンルム 図解検査 イ

した直後、ノミ、ミ、シ

大5分。マス目は3-10

できる。

るLEDを入力して検査時の液飛散などが課題と分類する。テスト本